

第9回全国空手道指導者研修会



団体形リーグ戦の様子

第9回全国空手道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、全国高等学校体育連盟空手道専門部、全国中学校空手道連盟、後援＝スポーツ庁）は8月16～18日の3日間、東京・辰巳の日本空手道会館で、講師・助講師11名、参加者39名が集まって行われた。本研修会は、平成24年度から完全実施された中学校武道必修化の充実に向け、日本全国で空手道を指導する中学校、高等学校の指導者を対象に、我が国固有の伝統と文化に立脚した研修会として実施され、教科体育「空手道」の理解を深め、空手道の授業指導法および専門的な知識・技術の充実を図り、もって中学校、高等学校空手道指導者の資質向上に資する目的で行われた。

■1日目（8月16日）

開講式では、はじめに笹川堯全日本空手道連盟会長が挨拶に立ち、「厳しい暑さが続く中、本研修会にお集まりいただきありがとうございます。空手道が正式種目となった2020年オリンピック東京大会まで、あと2年となりました。オリンピックの目標の1つに『安全と健康』ということがあり、空手道はそれに合致しています。オリンピックの正式種目になることの意義は、多くの人に空手道を見ていただいて、『楽しそう。やってみたい』と思っていただくことにあります。また、文部科学省が提唱している生涯スポーツにも、空手道は合致しています。『空手道は安全で健康である』ということ、生徒や保護者、学校関係者にお話しいただいて、1校でも多くの中学校で採用していただくと大変ありがたいと思っております」

と述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が主催者挨拶に立ち、「今年度の研修会は、中学校・高等学校の保健体育科教員を参加対象の中心に目的を絞り、空手道授業の推進と充実のために実施いたします。中学校武道必修化も6年が過ぎ、初年度は120校程度だった空手道授業採用校が、現在は260校まで増えました。これは笹川会長をはじめ、関係する先生方のご尽力の賜物です。2年後には、2020年オリンピック東京大会が日本武道館で開催されます。また、次期学習指導要領には空手道を含む武道9種目が中学校武道授業の実施種目として並列明記されるということで、空手道には追い風が吹いています。これから空手道は脚光を浴び、世界中に広まっていきます。参加された先生方には、指導者としての資質と指導力の向上を図るとともに、どのように生徒を立派に育てるか、楽しい指導をして効果を上げるかを講師の先生方から学び、有意義に研修が進むことを期待しております」と述べた。

開講式終了後、栗原茂夫講義講師が「2020年東京五輪に向けた取組・中学校武道必修化について」と題して講義を行った。はじめに、2020年オリンピック東京大会に空手道が採用された経緯を説明した後、全日本空手道連盟の設立目的、沿革を説明した。中学校武道必修化については、空手道授業採用校数について触れ、「皆様がこの研修会で身に付けたことを、生徒に還元していただくことに大きな意義があります」と述べた。続いて、日本武道協会発行の「中学

校武道必修化指導書」付属 DVD の武道編を全員で視聴した。

その後、初心者班（空手道を専門としない本研修会に初めて参加する人・14名）、中級者班（空手道を専門としないが既に空手道授業を行っている、または過去の研修会に参加経験のある人・10名）、上級者班（空手道を専門とする人、有段者・15名）に分かれて、基本動作が行われた。初心者班は千葉佳永子講師が担当し、はじめに研修会に参加した目的や空手道経験等、参加者の現状を確認した。続いて、参加者同士が握手をして自己紹介をするアイスブレイクを行ってから、空手道の基本的な技術の指導に入った。正座（左座右起）、礼法（立礼、座礼）、黙想を行った後、手の握り方、中段突き、上段突き、順突き、逆突きの練習を行った。そして、翌日行う中学校武道指導実践法に備え、最後に基本形一を行った。中級者班は井下佳織講師が担当し、参加者1名が先生役、4名が生徒役を担う模擬授業を行った。先生役には、正面突き、上段受け等の指導内容を設定した。模擬授業後、先生役は、生徒役からフィードバック（ネガティブでない未来に向けての提案事項）を受けた。

■2日目（8月17日）

午前中は、「中学校武道指導実践法①『空手道授業の現状』」を岩城公二講師が担当した。はじめに講義を行い、日本武道館が実施している「中学校武道必修化に関するアンケート調査」を元に、空手道授業の実施状況を説明した。また、次期学習指導要領の文言を解説した後、授業協力者について「学校は地域の専門的指導を欲している。外部の指導者は、自ら売り込むことが空手道授業採用に繋がる」と述べた。続いて大道場へ移動し、実技に移った。突きの指導では、ICT教材を利用した指導法を実践した。参加者は2名1組のペアを作り、個人が所有しているスマートフォンを活用し、突きの様子を、正面と真横から撮影した。



スマートフォンを活用した突きの練習

撮影後は、動画を見ながら正中線を突いているか等の動作を振り返り、アドバイスし合った。

午後は、日野一男講師による「空手道の指導を安全に行うために」の講義に移った。法律の専門家である日野講師は「空手道の技術そのものが原因で、裁判になった事例は1件もない」と強調した。さらに不審者への対策として「空手道は護身術になる。不審者と出くわした際、まず逃げることを考えるべき。空手道は相手と組み合わず、突きや蹴りにより相手と距離を置いて、逃げる時間を与えてくれる」と説明した。

日野講師の講義後は、引き続き、岩城講師による「中学校武道指導実践法②『団体形演武』」が行われた。はじめに講習の最後に試合形式で行う団体形リーグ戦に向け、初級班・中級班・上級班からそれぞれ1名ずつを選出した3名のチームを作った。続いて、上級班を見本とし、基本形一・二・三の全体練習を行った。団体形リーグ戦で行う形は各チームで話し合って決めることとし、入退場方法等の説明の後、各チームの自由練習時間を40分間設けた。団体形リーグ戦は、4~5チームが参加するリーグを3つ作って実施され、試合をしないチームは審判員を務めた。団体形リーグ戦終了後、優秀な成績を修めたチームには、全日本空手道連盟と日本武道館より記念品が贈られた。

■3日目（8月18日）

はじめに、「コンディショニングストレッチ」を井下講師が担当し、スタティックストレッチは単独またはペアで、ダイナミックストレッチは音楽に合わせてそれぞれ行い、参加者は身体をほぐした。次に「約束組手」を小山正辰講師が担当した。空手道の歴史の説明をした後、約束組手の立ち方、基本（受け、突き、蹴り）、目付け、間合等を説明した。参加者は2人1組で実践し、最後に自由練習を行った。

閉講式では、松尾貴之日本武道館振興部振興課長が参加者代表の高橋宏道氏（千葉県鋸南町立鋸南中学校教諭）に修了証を授与し、続いて、小山講師が講師講評を行った。最後に、有竹隆佐たかすけ全日本空手道連盟専務理事が主催者挨拶を行い、「空手道の教育的普及については、今回参加された皆様にかかっています。現在、中学校空手道授業採用校は261校ですが、2019年には300校、2020年には400校を目指していきたい」と述べ、研修会の全日程を終了した。